

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...



Vol.48

また今月もコラムが悩ましい



「広報とば」は毎月1日発行。原稿の締め切りはその1か月前です。コロナ禍で中止や延期になる事業が続出して、このコラムもだんだんネタに困ることが多くなってきました。編集担当からまだかまだかと追い立てられつつも、なんとか継続しています。コロナ対策にしても、東京2020オリンピック・パラリンピックにしても、このコラムを通じて伝えたいテーマはその都度見つかるのですが、書いたものがみなさんの目に触れるのが1か月も先となると、その頃のコロナの感染状況はどうなのだろう、または猛暑の記事に秋風は吹いていないだろうか、などと心配になることがあります。

「広報とば」の発行部数は約8000部。主に町内会や自治会を通じて各世帯に配布されます。そしてみなさんお気付きでしょうが、このコラムは1か月遅れで地域のミニミニ誌に転載されています。鳥羽を含め伊勢・度会・玉城エリアになんと6万4940部も発行されています。内容によっては近隣市町のみなさんへ鳥羽をPRする絶好の機会だと捉え、思わず力が入ります。市内だけでなく、市外のかたからも「市長コラム楽しみにしていますよ」と声をかけられることが増えました。掲載ページが固定ではないので見つけにくいかもしれませんが、探して読んでくださいなね。知事や伊勢市長のコラムも一緒に載っているのので負けてはいられません。

【みなさんへのお願いです】

以前にも取り上げましたが、コロナ禍で献血するかたが激減し、この状況が続くと、医療機関への輸血用血液製剤の安定供給に支障をきたす恐れがあるそうです。職場や学校へ出向く献血バスの中止や、コロナ禍の外出控えや猛暑も原因と見られます。私の行きつけは伊勢赤十字病院前の伊勢献血ルーム「ハートワン」です。献血のための外出は不要不急には当たりませんが、施設内の感染症対策も万全です。献血が現在の「無償の献血」になったのは前回の東京オリンピックが開かれた1964年のことです。輸血用の血液は献血により確保することがこの年閣議決定されました。それ以前は民間の血液銀行による売血によって確保されてきました。今では考えられない時代があつたのです。ただ科学技術が進んでも血液を造り出すには至っていません。献血で確保するしかないのです。鳥羽では鳥羽ライオンズクラブや鳥羽青年会議所が定期的に献血バスを呼んでくれており、11月14日(日)にも鳥羽シヨッピングラザハローで実施予定です。献血バスを見かけたらよろしくお願ひします！これもコロナ禍における医療支援ですね。



ワクチン会場でもPRをしました



Vol.207
教育委員会生涯学習課
☎ 1268

『オリンピックとピクトグラム』

東京オリンピック2020の開会式で、パントマイムアーティストによる競技種目を表すピクトグラムのパフォーマンスが目玉をあげました。

ピクトグラム(案内用図記号)は、わたしたちの身の回りには「非常口マーク」や「トイレマーク」など、事柄の特徴を分かりやすいデザインと色で表現したマークのことです。一般に「絵文字」「絵単語」ともいわれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号の一つです。このピクトグラムが日本で広く普及し、世界中に広がっていったきっかけは、1964(昭和39年)前回の東京オリンピックで使用されたことでした。その後、多くの公共施設や交通機関などで使われるようになり、代表的なものはJIS(日本産

業規格)統一規格とされ、改正により追加・見直しが行われています。また、基本的な考え方のひとつとして「多様性と調和」を掲げている東京オリンピック2020にむけて、ISO(国際規格)に統一されたものもあります。ピクトグラムは、いかに情報を正確に伝えるかということが主な目的でデザインされていますが、その根底には、「コミュニケーションや情報収集で困っている人を支援するという願いが込められています。これは、相手の立場や事情を思いやり、一人ひとりを大切にすることという考え方に通じます。また、年齢性別・言語・文化・身体状況など、それぞれの人が持つさまざまな違いに関わらず、だれもが暮らしやすい社会を実現しようとするということもつながります。そのためピクトグラムが担う役割は、これからも大きくなっていくと思います。

わたしたちの身の回りには、それぞれの人の置かれた状況や背景を思いやることから生まれたものが、たくさんあります。身近にあるピクトグラムが表す情報や願い・思いを考え、これからも、より「やさしいまち」を目指して、一人ひとりができることを考えてみませんか。